

5つの声かけを実践して、夏を涼しく乗り切ろう！

熱中症予防には、気温が高い時間帯の激しい運動や、屋外での作業を控えるなどの自己防衛策が大切です。

さらに、「ちよつと、ひと涼みませんか」と声をかけ合うゆとりと気遣いをもつことが、熱中症から人の命を救うことになりま

・休息をとろう

寝苦しい夜は、空気の通りをよくしたり、通気性の良い寝具を使うなどしてぐっすり眠れる工夫をしましょう。

・栄養をとろう

バランスよく食べることで、朝ごはんをしっかり食べることも大切です。

熱中症予防

5つの声かけ

・温度に気をくばろう

今いるところの温度、これから行くところの温度を、温度計や天気予報で知るようにしましょう。

・飲み物を持ち歩こう

いつでもどこでも水分補給できるように、飲み物を持ち歩きましょう。たくさん汗をかいたら塩分も補給しましょう。

熱中症を予防しましょう



「シロクマの涼太郎」

熱中症予防声かけプロジェクトのマスコット

・声をかけ合おう

家族やご近所同士で、「水分とってる?」、「少し休んだほうが良いよ」等、声をかけ合いましょう。

お問い合わせは、健康管理課(2階)

TEL 1574, FAX 2016000

市長が行く

地方創生について

No.71

茂原市長 田中豊彦



少子高齢化の進展、東京への人口の一極集中などから、地方の人口は減少の一途をたどっており、街の活力が失われつつあります。

今、「地方創生」という言葉が叫ばれ、国も法律を制定し、「それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち、ひと、しごと、創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する」としております。

その施策の一部として、地方の消費喚起のために、「プレミアム商品券」の発行を国は勧めました。茂原市では、県内でもいち早くゴールデンウィーク前の4月中に3万6千セットを販売しました。6月議会では、プレミアム商品券の販売について、色々な問題点を指摘されましたが、5月1日から20日までの回収で1億2千8百万円の消費喚起

があり、本市の活性化に役買ったものと思われま

さて、この後、国が言う地方創生に向けての総合戦略会議を開き、10月までに取りまとめていきたいと思っております。ただ、いままでにも、地方創生(茂原市の再生)について手を打ってこなかったわけではありません。778億円あった借金を607億円まで減らし、財政調整基金を3億円から39億円まで増やし、学校耐震化の処理、長生病院の黒字化、日立、東芝コンポーネンツの撤退後のJDI(※)や沢井製薬の誘致等々、大分改善してきたと思っております。

しかし残念なことに、根本的な問題は、一地方行政がいくら頑張ってもできない現実があります。一つは、医療問題です。あれほど機会があるたびに医師、看護師が不足していると訴えても一向に対策を打ってくれません。

また、この20年の間に企業の構造が大きく変わり、従来のような一大企業にいくつもの関連会社、子会社等があるピラミッド型の企業構造でなくなってきた現在、せつかく企業誘致がうまくいっても、すそ野が広がらず、雇用の拡大にもつながっていきません。こういったことに、国がもっと真剣に取り組んでもらいたいとは考えます。

いつも国からの指示は一方通行で、なかなか地方の声が中央に届くということが少ないように感じています。本来ならば、現実の問題をしっかりと見極めたうえで政策がもつと打ち出されるべきだと思います。そうでなくては本当の意味での地方創生はなされないのではないのでしょうか。この「地方創生」の法律の施行が、それを改善していくきっかけになってほしいものです。

(※) ジャパンディスプレイ